

都市再生整備計画

やまだ
山田地区

だい かいへんこう
(第4回変更)
かがわけん たかまつし
香川県 高松市

令和5年10月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	香川県	市町村名	高松市	地区名	山田地区	面積	8	ha							
計画期間	令和	1	年度	～	令和	5	年度	交付期間	令和	1	年度	～	令和	5	年度

目標
 ・本市の目指す「多核連携型コンパクト・エコシティ」の実現のため、東部南地域の生活交流拠点として、地域の日常生活に欠くことのできない各種サービス機能を提供する集約拠点としての環境づくりを効果的に行うとともに、公共交通サービスの向上を目指し、交流を育み、定住を促す、安全・便利な魅力あるまちづくりを実現する。
 ・高松市街地のベッドタウンとしての機能を持つ山田地区の特性を生かし、医療・福祉・商業等の都市機能を誘導し集約することにより、効率的な各種サービスの提供を図るとともに、行政機能や防災機能を有した施設等を整備し、居住の誘導・交流促進による賑わい創出や都市活力の向上を目指す。
 ・交通結節拠点であることでん仏生山駅とのアクセスを確保し、山田地区の公共交通空白地域の解消及び公共交通の利用者を確保・維持することで、地域コミュニティの維持・活性化を目指す。

目標設定の根拠
 都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。
 山田地区は、都市計画マスタープランにおいて、「生活交流拠点」として位置付けられており、地域の日常生活に欠くことのできない各種サービス機能を提供する集約拠点としての環境づくりを効果的に行うなどの取り組みにより、市民生活に身近なまちづくりを目指すこととしている。
まちづくりの経緯及び現況
 本地区は、旧山田町の中心部となっていた地区であり、地域の大部分を平野が占め、田園地帯が広がり、高松市のベッドタウンとしての機能を有し、幹線道路沿道を中心とした生活利便施設が立地している。これらの特性を生かし、医療・福祉・商業等の都市機能を誘導し集約することにより、効率的な各種サービスの提供を図る。さらに、行政機能や防災機能を有した施設等を整備することで、居住の誘導が図られ、東部南地域の生活交流拠点として交流促進による賑わい創出に寄与することとなる。また、現在の本地区の主要な公共交通機関は路線バスや乗り合いタクシーとなっており、鉄道とバスが並行して運行する区間も多く、通勤距離が長くなり、非効率な運行となっている。そこで鉄道を基軸・バスをフィーダーとする公共交通ネットワーク再構築の考えに基づき、これらの利用環境を充実させることに加え、交通結節拠点であることでん仏生山駅とのアクセスを確保することにより、交通空白地域の解消及び中心市街地へアクセス性を高める。そして、これら公共交通の利用者を確保・維持することにより、更なる居住誘導を図り、地域コミュニティが維持・活性化されることを見込んでいる。
課題
 ・山田地区では、生活交流拠点として、生活サービス機能の整備など、都市活力の維持・向上や地域の暮らしやすさの向上が求められており、次に掲げる2つの課題を解消し、本市東部南地域の地域交流拠点としてふさわしい活力ある地域づくりを進めることとする。
 ①地域住民の交流を生み、人が集まる空間を整備するため、都市機能の誘導及び集約化のほか、行政機能や防災機能を有した施設等の整備など、コミュニティ活動に必要な機能を有する集約拠点を確保する必要がある。
 ②公共交通空白地域の解消のため、交通結節拠点であることでん仏生山駅と山田地区を繋ぐアクセスを確保する必要がある。
将来ビジョン(中長期)
【総合計画】
 ・平成29年8月に改定した、都市計画マスタープランに基づき、都市機能の集積と市街地の拡大抑制によるコンパクトな都市構造及び人と環境にやさしい公共交通を基軸とした「多核連携型コンパクト・エコシティ」を目指すこととしており、生活交流拠点に位置付けている本地区における、持続的な居住・経済活動などを支えるため、地域の生活拠点としての環境づくりを効果的に行うなど、地域の特性にふさわしい一定規模以上の商業・医療・産業環境や行政サービス機能の確保・集約化を図る。
 ・公共交通空白地域の解消のため、交通結節拠点であることでん仏生山駅と山田地区を繋ぐ新規バス路線の運行や、コミュニティバス、乗り合いタクシーの利用環境の充実と鉄道利用、バス利用等の促進を目指す。
 ・第5次高松市総合計画における、自然環境と調和した良好な住宅環境の形成と各住区における地域施設のネットワークの形成や、公共交通機関の確保を引き続き図るとともに、平成28年度からスタートした第6次高松市総合計画の基本構想に基づき、参画・協働によるコミュニティの再生及び地域のまちづくりが活性化するよう、組織体制の充実を図る。また、適正な土地利用を推進し、地域の拠点性を確保する。
 ・「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考えの下、持続可能な公共交通ネットワークを構築していく観点から、既存の鉄道を基軸とする現行バス路線の再編に取り組んでいるところであり、ことでん仏生山駅を本市南部地域のハブ機能を持つ交通結節拠点として再整備することとしていることから、都市計画マスタープランや立地適正化計画と整合した交通アクセスを確保する。
 ・計画的な土地利用の誘導(適正な土地利用への誘導や居住誘導区域外への市街地拡散の抑制)
 ・平成22年9月に改訂した、高松市緑の基本計画では、子どもから高齢者までより多くの市民ニーズに応え、心地よく緑と触れあい、ゆとりと安らぎを感じることができる公園・緑化空間の形成を目指すこととしている。

都市構造再編集集中支援事業の計画 ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。
都市機能配置の考え方
 本地区は立地適正化計画において、日常生活に係る身近な都市機能の維持・誘導を図る一般都市機能誘導区域に位置付けるとともに、地域の日常生活に欠くことのできない各種サービス機能を提供する集約拠点としての環境づくりを効果的に行うなどの取り組みにより、市民生活に身近なまちづくりを目指す生活交流拠点として位置付けている。
都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方
 本地区は、交通結節点及び生活交流拠点の核となることから、誘導施設として地域交流センターを設定することとしており、都市機能の集約拠点としての環境づくりを図ることとしている。また、地域における行政組織の中核的機能を担う総合センターの合築を予定し、市民生活に身近なまちづくりを目指している。
都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等
 都市再生土地区画整理事業や市街地再開発事業の特例を受ける場合は当該事業の概要、位置づけを記載。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
				基準年度	目標年度	
地域交流施設の利用者数	人/年	整備する地域交流施設の利用者数	周辺施設と連携した施設整備により、交流の場を創出することから、地域交流施設の利用者数をもって評価する	12,844人/年	平成29年度	24,000人/年 R6
バス利用者数	人/年	山田地区コミュニティバス(どんぐり号)の利用者数	周辺施設整備の波及効果として、山田地区コミュニティバス(どんぐり号)の利用者数をもって評価する	6,584人/年	平成29年度	6,600人/年 R6

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1【高松市街地のベッドタウンとしての機能を持つ山田地区の特性を生かし、医療・福祉・商業等の都市機能を誘導し集約することにより、効率的な各種サービスの提供を図るとともに、行政機能や防災機能を有した施設等を整備し、居住の誘導・交流促進による賑わい創出や都市活力の向上を目指す。】</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政機能である総合センターだけでなく、保健センターや地域包括支援センターの医療・福祉を集約することにより、効率的な行政サービスを提供できるようにするほか、消防署出張所など防災機能も有した施設等も併せて整備することで居住の誘導を図る。 地域交流センターを整備することにより、地域住民の相互交流を図り、賑わい創出や都市活力を向上させる。 	<p>【基幹事業】</p> <p>道路：川島本町3号線・7号線(道路改良工事)、県道三木国分寺線(道路標識設置工事) 公園：川島中央公園 高次都市施設：地域交流センター</p> <p>【関連事業】</p> <p>幼保一体化施設整備事業 東消防署山田出張所整備事業 総合センター整備事業</p>
<p>整備方針2【交通結節拠点であることでもん仏生山駅とのアクセスを確保し、山田地区の交通空白地域の解消及び公共交通の利用者を確保・維持することで、地域コミュニティの維持・活性化を目指す。】</p> <ul style="list-style-type: none"> 路線バスやコミュニティバスが駐機できるバスロータリー等を整備することにより、ことでもん仏生山駅とのアクセスを確保し、山田地区の公共交通空白地域の解消及び公共交通の利用者を確保・維持が可能となり、コミュニティの維持・活性化を図る。 	<p>【基幹事業】</p> <p>道路：川島本町3号線・7号線(道路改良工事)、県道三木国分寺線(道路標識設置工事) 高次都市施設：地域交流センター</p> <p>【提案事業】</p> <p>バスロータリー整備事業</p> <p>【関連事業】</p> <p>総合センター整備事業</p>
<p>その他</p>	
<p> </p>	

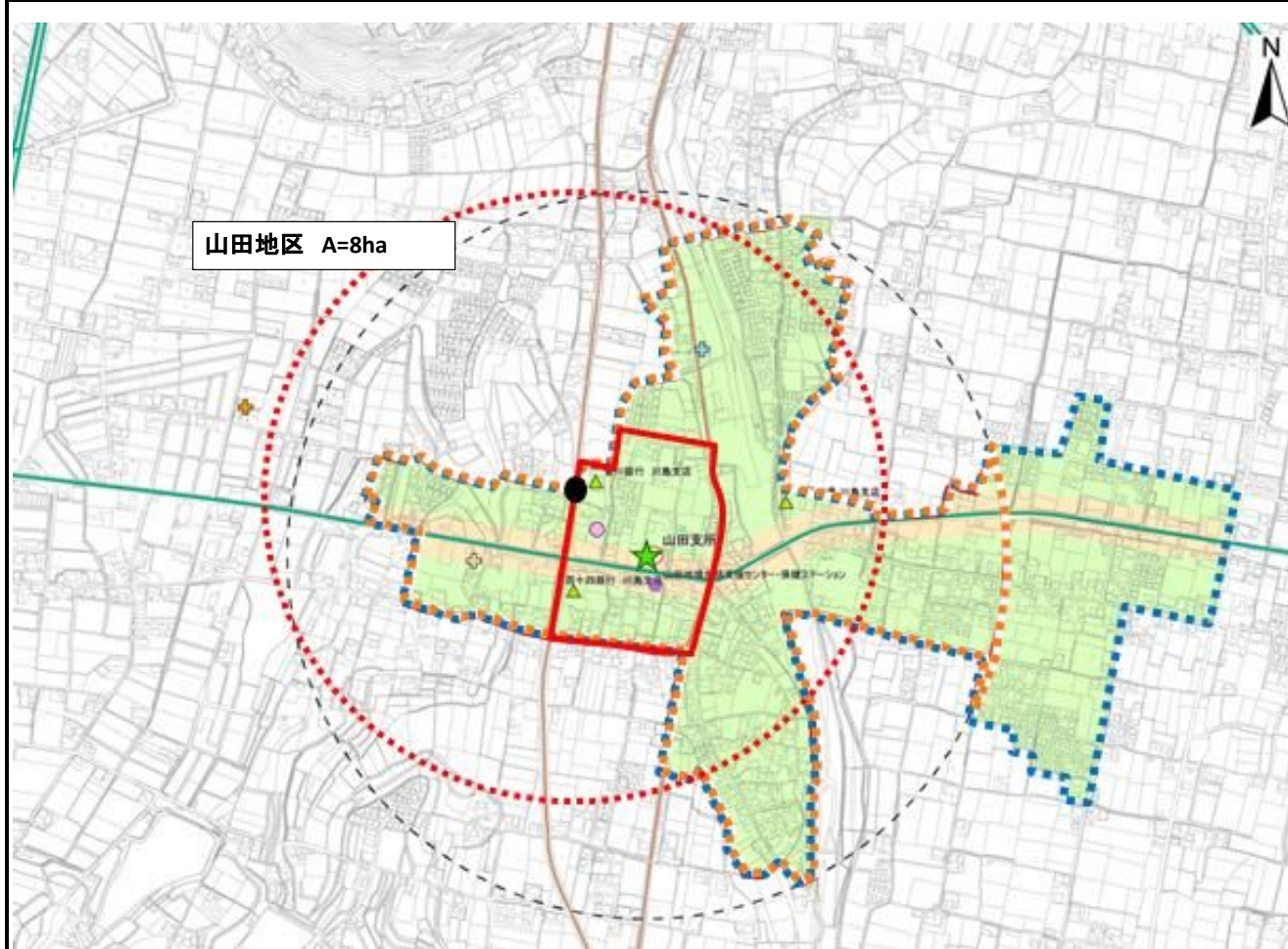
山田地区(香川県高松市)

面積

8 ha

区域

川島本町、川島東町の一部



凡例

○ 総合センター	+ 診療所(内科)
● スーパーマーケット	+ 診療所(外科(整形外科))
● 地域包括支援センター・保健ステーション	+ 診療所(内科・小児科)
▲ 銀行等	

【凡例】

鉄道網	用途地域
□ 駅	■ 第一種低層住居専用地域
— JR	■ 第二種低層住居専用地域
— その他の路線	■ 第一種中高層住居専用地域
道路網	■ 第二種中高層住居専用地域
— 高速道路	■ 第一種住居地域
— 一般国道	■ 第二種住居地域
— 主要地方道	■ 準住居地域
— 一般県道	■ 近隣商業地域
拠点	■ 商業地域
★ 広域交流拠点	■ 工業地域
★ 地域交流拠点	■ 工業専用地域
★ 生活交流拠点	■ 準工業地域

S=1/125,000

凡例

□ (Red outline)	都市再生整備計画の区域
□ (Blue dotted outline)	居住誘導区域
□ (Orange dotted outline)	一般都市機能誘導区域
□ (Red dashed outline)	川島バス停を中心に半径500m圏内

山田地区(香川県高松市)整備方針概要図

目標	<p>大目標 本市の目指す「多核連携型コンパクトエコシティ」の実現のため、東部南地域の生活交流拠点として、地域の日常生活に欠くことのできない各種サービス機能を提供する集約拠点としての環境づくりを効果的に行うとともに、公共交通サービスの向上を目指し、交流を育み、定住を促す、安全・便利な魅力あるまちづくりを実現する。</p>	<p>地域交流施設の利用者数 (人/年)</p>	<p>12,844 (H29年度) → 24,000 (R6年度)</p>	
	<p>目標1 高松市街地のベッドタウンとして機能を持つ山田地域の特性を生かし、医療・福祉・商業等の都市機能を誘導し、集約することにより、効率的な各種サービスの提供を図るとともに、行政機能や防災機能を有した施設等を整備し、居住の誘導・交流促進による賑わい創出や都市活力の向上を目指す。</p>	<p>代表的な指標</p>	<p>バスの利用者数 (人/年)</p>	<p>6,584 (H29年度) → 6,600 (R6年度)</p>
	<p>目標2 交通結節拠点であることでん仏生山駅とのアクセスを確保し、山田地区の公共交通空白地域の解消及び公共交通の利用者を確保・維持することで、地域コミュニティの維持・活性化を目指す。</p>			

